

6-2 真木野の馬頭観音塔と民間信仰の石造物

藤 由美

はじめに

真木野には、旧村の人々により、前項の庚申塔群のほか、馬頭観音塔群、日蓮宗の妙徳寺境内と辺田道分岐の題目塔、神明神社境内外の石祠や奉養物などが奉納されている。

北総の他宗派の村落の一般的な石造物と同様な石造物が多いが、特に馬頭観音群の中の「観音妙智力」銘塔や、辺田道の「水難横死霊 神保領千部講中」銘塔など、中世からの中山法華経寺神保領の旧村としての特徴を持つ石造物もみられる。

これらの石造物について、『八千代市の歴史 資料編』の「石造文化財」一覧表(注1)と『よなもと今昔』10号(注2)を参考に、2023年4月5日と18日に、本会の畠山隆・鈴木千代・松柴慎吾・藤村誠枝・菅原賢男・瀬川尚子・藤由美会員で調査を行った。

1. 馬頭観音塔群

真木野から佐山へ向かう北側辺田道の集落が尽きた東の境に、馬頭観音塔群がある。かつて集落のはずれに牛馬を葬った「ソーマンド」で、現在は、秀明大学敷地の大学町1丁目の北東角にフェンスに囲まれて、コンクリートの基壇上に8基の石塔が並ぶ。

この馬頭観音塔群は、秀明大学の誘致とともに「大学町」の都市開発された際に、明和5年銘から昭和24年銘まで7基の馬頭観音塔が整備再建されたもので、前列中央に新たに建てられた黒御影石の馬頭観音塔(No.7)の裏面の「昭和六十三年九月吉日／大日本土木株式会社建之」銘文が、大学町整備の歴史を物語っている。

この馬頭観音塔群には馬頭観音像を刻む像塔はなく、すべて文字塔で、6基は「馬頭観世音」銘、他の2基は「観音妙智力」銘を主尊とする江戸中期の石塔である。

明和5年(1768)の石塔には「観音妙智力」銘、年欠のやや大きめの石塔には、題目と「観音妙智力 能救世間苦」の銘があり、後者は明和5年銘塔に先行すると思われる。

「観音妙智力」とは、「大乘妙典観世音菩薩普門品」の偈「衆生被困厄 無量苦逼身 観音妙智力 能救世間苦」にあり、「生きとし生けるものが困難や災いで、ひどく苦しみに打ちひしがれるのを、観世音菩薩は妙智力をもってすぐに察知し、世間の苦しみを救済してくださる」との意味である。なお、隣の佐山の馬頭観音講では「通身是手眼 應現之無方 観音妙智力 能救世間苦」と書かれた掛軸を用いている(注3)。

「観音妙智力」銘塔は、同じく日蓮宗地域の島田台に年欠の塔が1基あり、市内では計3基のみで、これら3基を『よなもと今昔』10号(注2)では「周囲の状況から馬頭観音と認められる」としている。

現在、真木野では馬頭観音講は行われていないが、毎年8月6日の「堂なぎ」の際に、馬頭観音群の掃除を共同で行っている。

表1 真木野の馬頭観音塔 一覧

No	造立年月日	西暦	形状	銘文
1	明和 5・2・吉	1768	丸頭型	観音妙智力／真木野村中惣施主
2	天明 6・8・14	1786	駒型	馬頭観世音
3	寛政 13・2・吉	1801	駒型	馬頭観世音
4	文化 13・5・17	1816	駒型	馬頭観世音
5	明治 36・9・15	1903	駒型	馬頭観世音／山咲寄五兵工
6	昭和 24・3・吉	1949	山状角柱型	馬頭観世音／山崎茂木之建
7	昭和 63・9・吉	1988	駒型	馬頭観世音／大日本土木株式会社建之
8	年欠		丸頭型	南無妙法蓮華経／観音妙智力 能救世間苦

写真 1



2. 題目塔

日蓮宗の地域の最も特徴的な石造物は、「南無妙法蓮華経法」の七字の題目を彫った題目塔である。「妙法蓮華経」の五字を本仏の名号と見なし、妙法蓮華経の法・御教えに帰依する言葉として、「南無妙法蓮華経」の題目が生まれた。

日蓮は「南無妙法蓮華経」の題目を唱え、妙法蓮華経に帰命していくなかで凡夫の身の中にも仏性が目覚めてゆき、真の成仏の道を歩むことが出来るという教えを説き、さらに、この題目を中心に、左右に釈迦如来と多宝如来、さらに「従地涌出品第十五」の四大菩薩、四隅に四天王、法華経にある諸天や神々や高僧の名などを配した「大曼荼羅」を書き与え、宗徒に崇拜された。

中世には追善や逆修の供養のための題目板碑が造られ、近世に入ってから日蓮宗の講中による経典の読誦、宗祖日蓮の遠忌、身延山巡礼などの記念を目的とした題目塔が多く造立されている。

真木野では、妙徳寺に正保4年(1647)銘の法華経二千部読誦塔(No.9)がある。市内の近世石造物では、島田の寛永2年(1625)の題目塔に次いで、2番目に古い板碑型の貴重な石造物である。

そのほか、真木野村の題目講中によって、安永7年(1778)に宗祖五百遠忌供養の題目塔(No.10)、天保13年(1842)に首題一千部供養の題目塔(No.11)が、妙徳寺に建てられている。

さらに、字原ノ下の辺田道に、大正7年(1918)水難横死霊供養の題目塔(No.12)が、「神保領千部講中」によって造立されている。この場所は、佐山～真木野の辺田道のT字路の秀明大学グラウンド角で、この角から水田の中の道を行く道は、神崎川のほとりに至り、かつては対岸の印西市武西へ渡る道であった。

神保領千部講は、旧神保領の日蓮宗寺院十三カ寺の村々(八千代市・船橋市・白井市)で一団となり月毎に回り持ちで、法華経を大勢で唱える「千部」を行っているほか、8月28日に大川施餓鬼を12年毎に回り持ちで行い、13カ寺の村々も参加する。真木野と神久保は小さな集落なので24年に1回で、真木野では平成30年(2018)に行われた。

この大川施餓鬼は、川淵の渡し場跡や橋のたもとで行われ、題目と「戦災死歿水難横死霊位水向供養」の主旨を記した木製の角柱の高い大塔婆が新しく建てられる(注3)。

この大塔婆の脇に、明治32年から昭和5年まで石製の水難供養の題目塔が、神保領十三カ寺のムラ毎に建立され、10基を数える。真木野の字原ノ下の題目塔もこのうちの一つである。

旧神保領の村々は、印旛沼の水の恩恵を受けながら、また水による災害も甚大であった。千部講地域の共同の宗教行事として、大川施餓鬼が昔から今も続けられていることに、水難者の供養が村人にとって重要な法要であり、また過酷な自然と闘ってきた先祖の遺徳を偲ぶムラの歴史が刻まれていることを感じる。

表2 真木野の題目塔（読誦塔・題目講供養塔・水難横死霊供養塔）

No	所在地	造立年月日	西暦	形状	銘文
9	妙徳寺	正保 4・2・21	1647	板碑型	南無妙法蓮華經 為奉読誦法華經二千部開眼也 南無日蓮大菩薩□ 南無日當堅□ 南無多宝如来 南無釈迦牟尼佛 高誉山妙徳寺□ 一門□□
10	妙徳寺	安永 7・2・吉良	1778	山状角 柱型	南無妙法蓮華經 日蓮大菩薩 高誉山妙徳寺 日心(花押) 題目講中之面々 現安後善祈攸 宗祖五百遠忌供養宝塔也
11	妙徳寺	天保 13・3・大 吉	1842	山状角 柱型	南無妙法蓮華經 首題一千部 村々講中
12	字原ノ 下	大正 7・8・28	1918	丸頭型	南無妙法蓮華經 水難横死霊 神保領千部講中營之 講中

写真2



No. 9 正保4年(1647)
「読誦法華經二千部開眼」



No. 10 安永7年(1778)
「題目講宗祖五百遠忌」



No. 12 大正年(1918) 「水難
横死霊 神保領千部講中」

3. 神明神社境内外の月待塔・石祠・奉養物

真木野の産土の神明神社の境内とその周りに、ムラの講が造立した石塔や石祠がある。

庚申塔群の並びの右に二十三夜塔 (No. 13)、そのさらに右に道祖神社の石祠 (No. 20) がある。二十三夜塔は二十三夜待の講中が建てた供養塔で、この寛政 11 年 (1799) の二十三夜塔は正面に「奉待二十三夜塔」と刻まれ、左右面には「真木野村願主 山崎友右 (エ門)」など 24 人が名を連ねている。連名には「神久保村」名の 3 名もあり、隣村とのつながりが想定される。

市内日蓮宗地域では、月待塔のうち、二十三夜塔のみが元禄 7 年 (1694) から昭和 11 年 (1936) まで 16 基あり、「大月天子」の尊名を併記するものが多く、非日蓮宗地域に見られる十九夜塔などの他の月待塔はない。

この塔の隣の道祖神社の石祠 (No. 20) は、昭和 51 年銘であるが再建とみられる。道祖神は、塞神・道陸神などと呼ばれ、古代からの民俗信仰の神で、市内日蓮宗地域にも 15 基あり、佐山に集中している。

神明神社本殿の右側には三殿社があり、右から駒形神社石祠 (No. 18)、中央に天満宮石祠 (No. 21)、左に正応 6 年銘の中世板碑が祀られている。

天満宮はかつて妙徳寺と神明神社の間にあり、明治 44 年に神明神社に合祀された。三殿社の前には、文化 2 年 (1805) 銘の小さな手洗石があり、「子供中」と刻まれている。天満宮は子供たちの手習いの神さまで、江戸時代は寺子屋が営まれ、子供 (寺子) による講が行われていたと推定される。

また、神社参道入口左側に、小さな「山神宮」塔 (No. 15) と「薬師観音」石祠 (No. 22) がある。文化 4 年 (1807) 銘「山神宮」は、山の神を祀るのであろう。市内では、村上の七百餘所神社に大正 3 年 (1914) 「山神社」銘の石塔があるのみで、山神信仰の石塔は珍しい。「薬師観音」石祠 (No. 22) は、年銘や願主名がなく、その実態は不明である。神仏習合の尊名から、江戸時代の石祠と考えられるが、他に類がない。

そのほか、神明神社の奥を上った所に淡島神社 (「アワヌシ様」) があり、その前に 3 基の手洗石が奉納されている。小さな神社に合わせたミニチュアの手洗石であるが、明治 9 年 (1876) と明治 28 年 (1895) の銘があり、後者の奉納者は米本の人である。

注

1. 「石造文化財」『八千代市の歴史 資料編 近代現代Ⅲ 石造文化財』八千代市 2006 年
2. 木原律子・早瀬黄己「睦地区の石造文化財①」『よなもと今昔』10 号 阿蘇郷土研究サークル 1992 年
3. 三橋 俊一「馬はいなくても伝統はつなぐ『佐山の観音講』」本誌 2 - 2 2023 年
4. 巖由美「八千代市平戸の民俗行事『お釈迦講』と『大川施餓鬼』」『史談八千代』第 33 号 八千代市郷土歴史研究会 2008 年

表 3

No.	所在地	造立年月日	西暦	形 状	銘 文
13	字台	寛政 11・正・吉祥	1799	駒型	奉待二十三夜塔 真木野村 願主 *人名 24 人
14	神明神社	文化 2・8・吉	1805	手洗石	奉納 子供中
15	神社入口	文化 4・8・19	1807	駒型	山神宮
16	淡島神社	明治 9・□・□	1876	手洗石	山崎
17	淡島神社	明治 28・12	1895	手洗石	阿ソ村米本 故米ノ井良助
18	神明神社	明治 42・2・11	1909	石祠	駒形神社 真木野講中
19	神明神社	昭和 49・10・吉	1974	鳥居	奉納 氏子中
20	字台	昭和 54・11・吉	1979	石祠	道祖神
21	神明神社	昭和 61・3・吉	1986	石祠	天満宮 真木野氏子一同
22	神社入口	年欠		石祠	薬師観音
23	淡島神社	年欠		手洗石	

No. 13 二十三夜塔の 24 人の人名銘
 *願主 山崎友右 (エ門) 文七 □エ門 □□ 清□ □吉 清蔵
 □□ 与エ門 □□ 友□ 安エ門 □□ 伊三郎 初エ門 善蔵 幸□
 弥八 勸□ 常エ門 要蔵 神久保村 豊□ 幸八 太郎エ門

写真 3



図3 真木野の石造物所在地地図

